

# 考えながら外国語を用いてやり取りできる児童の育成

～単元を中心となる言語活動につながるSmall Talkの設定と指導の工夫～

【教科・領域】 外国語 5年  
We Can1 Unit3 What do you have on Monday?

平成30年度 前橋特別研修研究員  
前橋市立大利根小学校 星野 佐和子

## 【児童の実態】

- ・チャンツや単語のリピートには積極的に取り組んでいる。
- ・一対一のやり取りの際、1度つまずくと黙ってしまう。
- ・与えられた言語材料を暗記・羅列して話していることが多い。

## 【指導上の課題】

- ・やり取りの際に対話を続けさせるための手立てが不十分である。
- ・必要な言語材料を中心に提示しているため、児童がやり取りを行う際に活用する表現が限定的で、不自然になりがちである。



## 【手立て】

単元を中心となる言語活動につながるSmall Talkを設定し、単元を通して継続的に指導する

### Small Talk

- 単元を中心となる言語活動につながる語彙や表現、話題を設定し、単元を通して継続的に指導

教師と児童でやり取り

児童同士でやり取り

つながり

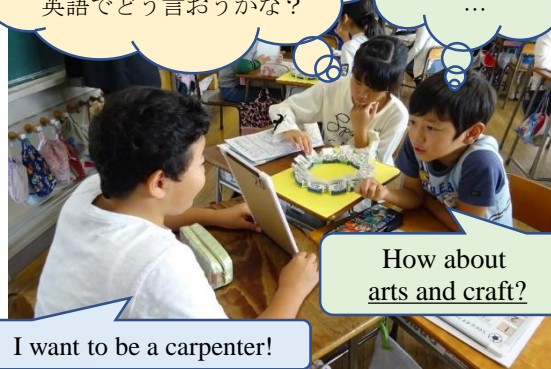
### 単元を中心となる言語活動

- Small Talkでやり取りした語彙や表現を活かし、単元を中心となる言語活動で考えながら友だちとやり取りする



Small Talkで児童同士がやり取りしている様子

↑ 中心となる言語活動で教科を扱うため、話題を「好きな教科」に設定



単元を中心となる言語活動に取り組む児童の様子

↑ おすすめの時間割を互いに提案

## 【成果】

- ・ Small Talkと単元を中心となる言語活動につながりをもたせたことで、新出表現とSmall Talkで扱った表現を組み合わせ、自分の本当に言いたいことを考えながら相手に伝えたり、興味をもって聞いたりしながらやり取りする姿が見られた。
- ・ 自分の本当に言いたいことと、英語での言い方を考えながら、互いにやり取りする姿が見られた。



## 【課題】

- ・ 児童が知っている語彙や表現が少ないため、Small Talkで扱う言語材料をさらに工夫する必要がある。
- ・ さらに児童の興味・関心を考慮しながら、Small Talkを設定、指導することが必要である。